

集落営農組織における 水田野菜の安定生産体系の確立

湖東農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

(農)フレンドリーファームいしでは、水稻・麦・大豆・野菜・農産加工による複合経営に取り組んでおられます。近年は米価の低迷が深刻なことから、冬場の労力を活用し経営安定を図るため、ブロッコリーを中心とする秋冬野菜の栽培に力を入れておられます。R2年度は約 1.5ha の面積でブロッコリー栽培に取り組みましたが、11 月に収穫が集中したため、適期に収穫することが難しくなりました。

そこで、R3年度は晩生品種を導入し、収穫時期の分散を図るとともに、詳細な作付け計画を作成し、適期収穫を行いながら、安定的な継続出荷が行われるよう支援しました。

【普及活動の内容】

6～7月にかけて、作付け計画の検討を支援しました。特に、暖冬傾向になっても収穫が一時期に集中しないよう、従来の中早生品種「おはよう」に加えて、1～3月に収穫予定の晩生品種「こんばんは」等も導入し、収穫期の分散を図るよう助言しました。また、市場に継続的に出荷できるよう計画的な定植についても時間をかけて検討しました。

育苗開始後は苗の徒長を防止するための水分管理等について支援しました。定植後は病害虫防除や肥培管理を中心に、適切な栽培管理が行われるよう支援しました。



写真1 収穫された晩生品種「こんばんは」

【普及活動の成果】

新たに晩生品種を導入し、作期分散を図ることができました。また、育苗や栽培管理についても支援することで、収穫適期を逃すことなく、計画的に収穫・出荷を行うことができ、安定した品質を確保することができました。年内出荷量は 700kg/10aを目標にしていたが、約 950kg/10aの収量を確保することができました。今後もブロッコリーに重点を置いた野菜の面積拡大を目指されることから、早期に安定生産体系が確立できるよう支援を継続していきます。

◎対象者の意見

作付け計画を念入りに検討し、品種による作期分散を図ったことで、適期収穫を実践でき、収益の向上につなげることができました。園芸品目の導入は収益確保に非常に重要であることから、今後も安定生産できるよう意欲的に取り組みたいと思います。(代表理事)